

◆第1回Web理事会後に行われた情報交換会では、テーマ「新型コロナウイルスから1年経過後の学校経営」(新型コロナウイルスに対する学校の新たな課題と工夫ある取組)と題し、各ブロックに分かれて行いました。

【テーマ設定理由】は、「新型コロナウイルス感染症が広まってから1年が経とうとしています。授業や行事、部活動など学校生活にも様々な変更を余儀なくされてきましたが、現在の課題は何か、また授業確保の有効手段など、今後のために役立つ情報や工夫ある取組などを共有化することは、すぐにも学校経営に活用できるものと考えています」との提案により行われました。情報交換内容の一部として「現状からの課題」を掲載します。

(1) 総合的な課題や教員の研修や学びの保障等について

・生徒同士、職員間の人間関係の希薄化。
 ・感染防止対策、ICT活用等による業務拡大に伴う教師の疲弊。
 ・市町教育委員会等からの指示・指導はあつもの、地域性が大きく異なるため、対応方法を統一することが難しい。
 ・また、学校の実情はそれぞれ異なるため、校長自身の判断に委ねられることが多く、苦慮している。
 ・校内研修でのグループワークの在り方や研修の充実のため教職員が集合して、研修をすることができない。
 ・各教科の全国的な発表や取り組みが中止になる中で、各市町村単位の研究が進みにくい。
 ・自宅待機中の学びの保障が課題であり、格差及び子供たちの体力の低下が大変心配である。
 ・今後の臨時休業に備えて、オンライン授業の準備の必要性を感じながらも、なかなか現実的に難しい状況がある。

・(2) 感染予防対策について
 ・変異ウイルスが子供に感染しやすいことが懸念される中、教室環境、職員室環境等何も変わらないままで経過している。
 ・幼稚園、保育園、小学校、中学校で兄弟姉妹がいる際の学校間の情報共有。
 ・生徒や保護者の感染については、想定しながらの取組であるが、教職員の感染や濃厚接触については、あらかじめの取組は難しく2週間出勤できない時の対応や複数の教職員が感染の対象となった場合のリスクがかなり高い。
 ・特に小規模校で複数の職員が自宅待機等になったときの対応が厳しい。
 ・感染リスクの高い教育活動のカリキュラムの工夫や代替の指導内容の研究が必要である。
 ・生徒がコロナウイルスの陽性になった場合、市の保健所の機能が不十分なため土日も教職員が対応する必要や学校休業が長引くことが頻出している。

(3) 行事や授業の在り方について

・授業等で対面であれば伝わらないことの多く、学校行事等、予測困難な

中で判断していかなければならない。常に中止、代替案を複数準備しなければならぬ状態が続いている。計画性のある教育活動の展開が困難である。

・学校行事の中止や縮小により、学校の伝統継承ができない。・集団宿泊的行事について教育的価値があることからコロナ禍においても工夫して実施するようにしているが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を受けてその代替となる教育活動を設定できない。・行事を自粛している状況の中で、生徒たちの活動に対する意欲を持続させるために心のケアを大切にしたい指導をしているがその対応も限界にきている。また、モチベーションの維持に苦慮している。・修学旅行を実施していない学校、宿泊日数が短い学校等様々である。また、キャンセル料を保護者負担ではなく、設置者負担としていところがある等の大きな差がある。・学校行事の目的や実施内容の見直しと改善

が必要であり、行事の精選（内容・日数など）を工夫しているが、一方では、授業時数の確保のための工夫が、少ない授業時数の中で難しい課題となっている。

（４）部活動について

・部活動中十分な感染防止対策の難しさが課題である。・各種の大会が行われている現状は、感染防止対策をとりながら実施することが難しくなっているにもかかわらず実施されていて、これを一校長として制限をかけることが難しい状況にある。・部活動等を自粛している状況の中で、生徒たちの活動に対する意欲を持続させるために心のケアを大切にしたい指導をしているが、モチベーションの維持に苦慮している。・競技団体主催の大会等の実施可否についての判断は、あくまでも主催者の判断である。一方、参加するかどうかの可否判断は、誰が責任をもって判断するのか。・部活動については、練習

時間の制約を課されている一方、全国大会につながる大会は実施されている。

（５）ICTについて

・GIGAスクール構想に沿った教師の資質・能力、指導技術向上の困難さ。・学習環境に関する課題として、学校及び全家庭の通信設備や環境の普及、端末の保障（故障や破損等）について課題がある。・タブレットの整備は進んだが、ネットワーク環境への課題や推進元となる市町教育委員会からの迅速な支援が難しく、円滑な利用には時間を要する。また活用に係る教員研修やICT支援員の配置が進んでいない。・ICT技術を活用した「リモート集会」、保護者参観・保護者説明会・家庭訪問のもちかたなどを、どのように継続するか。・指導者側のPCのOSと学校が購入したタブレットのOSが異なる場合があり、苦労がある。なお、具体的な解決策は全日中HPへ掲載する予定です。（事務局長 松澤 宏尚）